



代表取締役 社長執行役員

白居 賢

株主の皆様へ

初冬の候、株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期は世界的なインフレやコロナウイルスの影響により消費が盛上がり欠け、景気の回復スピードは鈍化しました。電子部品業界においても、半導体不足等の影響で生産が停滞し、荷動きが伸び悩みました。

このような事業環境下、当社は新規拡販や様々な生産性向上に取り組みました。また、緊急航空貨物など輸出入関連事業が高水準を継続したことや大幅な円安の影響もあり、当上半期の業績は増収増益を達成することができました。通期業績及び期末配当につきましても、期初の予想に対し上方修正を行いました。

下半期は、世界的な景気減速懸念、地政学リスク等、不透明感が強まっています。電子部品業界では、半導体不足の継続、電子機器に対する需要の落ち込みなど、電子部品物流を取り巻く環境もさらに厳しくなるものと思われまます。上半期の好業績に油断することなく、引き続き拡販活動や効率化等、業績向上に努めてまいります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年9月 第2四半期
IRレポート
～ 2022年4月1日から2022年9月30日まで～

株式の概況 (2022年9月30日現在)

■株式の状況



■大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アルプスアルパイン(株)	16,526	46.7
TDK(株)	2,804	7.9
BBH FOR ADELITY LOW-PRICED STOCK FUND	2,430	6.9
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,702	4.8
アルパイン(株)	792	2.2

※持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

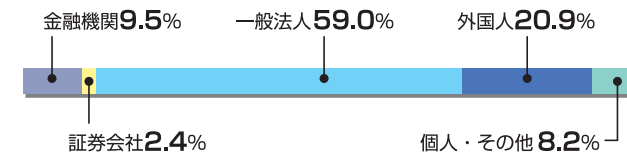
会社情報 (2022年9月30日 現在)

社名 株式会社アルプス物流 (証券コード 9055)
 英文社名 ALPS LOGISTICS CO., LTD.
 本社所在地 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1756
 電話番号 045-531-4133 (代表)
 設立 1964年7月2日
 資本金 23億 4,904万円
 社員数 (連結) 5,788名 (単独) 950名
 運行車輛数 (連結) 3,426台 (単独) 733台
 倉庫面積 (連結) 975千㎡ (単独) 313千㎡

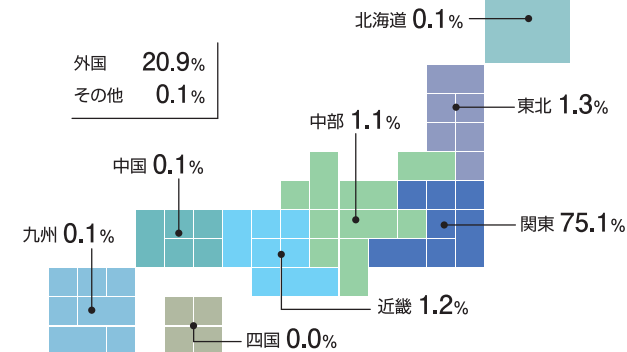
【株主優待制度のご案内】

- ◆対象となる株主様: 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上を保有されている株主様
- ◆優待内容: QUOカード1,000円分 ◆贈呈時期: 6月下旬頃

■所有者別株式分布状況



■地域別株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金受領株主確定日 3月31日
 中間配当金受領株主確定日 9月30日
 定時株主総会 毎年6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 (連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
 上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
 公告方法 電子公告

【ご注意】・住所変更等のお手続きは、口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせ下さい。
 ・特別口座に記載された株式に関するお手続き、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

物流個性 ●ホームページURL <https://www.alps-logistics.com/>
 ●IR情報URL <https://www.alps-logistics.com/jp/ir/>
 お客様のための、最適物流を。

当第2四半期の連結業績実績及び通期予想

(単位：百万円、率：前年同期比増減)

2023年3月期 第2四半期累計(実績)	
売上高	62,381 (11.1%) ↑
営業利益	4,204 (31.4%) ↑
経常利益	5,094 (72.2%) ↑
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,975 (74.0%) ↑

2023年3月期(予想)	
売上高	121,000 (6.3%) ↑
営業利益	6,900 (14.6%) ↑
経常利益	7,300 (18.4%) ↑
親会社株主に帰属する当期純利益	4,200 (16.7%) ↑

連結業績の概況 (2022年4月1日～2022年9月30日)



当社は世界の各地域でコロナ感染対策に十分注意を払い、各国において異なる規制に対応しながら、顧客のサプライチェーンの変化に対応すべく、サービスの向上と新規拡販に取り組みました。主要顧客である電子部品業界においては、半導体・電子部品などの供給不足が継続したことや、需要鈍化も見られ、電子機器や自動車関連の生産は回復力が弱く、電子部品の貨物取扱量も伸び悩みました。当期の連結売上高は、前期比11.1%増の623億円に、連結営業利益は、31.4%増の42億円となりました。

▼電子部品物流セグメント

航空・海上輸送のひっ迫が継続し、輸出入関連が高水準を継続したことなどにより売上高は増加しました。生産性向上の取り組み、円安の影響もあり、増収増益を達成することができました。

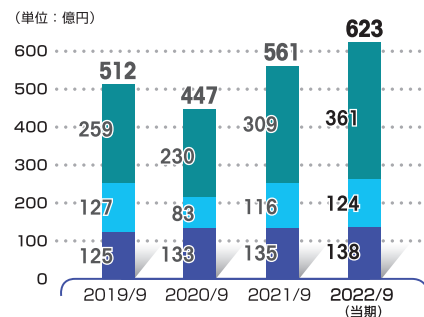
▼商品販売セグメント

成形材料・電子デバイスが中国向け情報通信機器関連で増加したことなどにより増加、円安の影響もあり増収増益となりました。

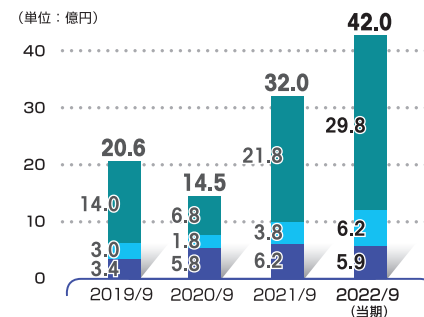
▼消費物流セグメント

コロナウイルスに伴う巣ごもり需要は一巡し宅配関連は横ばいでしたが、前期より稼働を開始したメディカル関連が寄与して増収の一方、新拠点設立費用などコスト増もあり減益となりました。

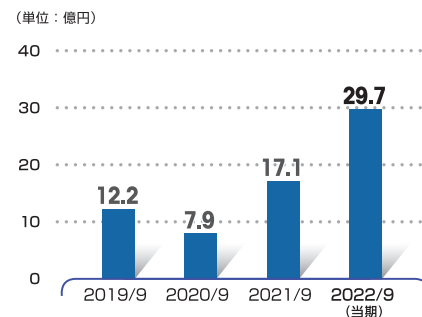
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



トピックス



横浜新倉庫が竣工

当社は、横浜営業所敷地内にて新たな倉庫を竣工し、10月17日より稼働を開始しました。新倉庫は延床面積約9,000㎡、4階建てで、横浜営業所の倉庫面積は当社グループ最大の約46,000㎡となりました。



環境負荷軽減の取り組みとして、当社国内施設では初めて、新倉庫の屋上に太陽光発電設備を導入しました。気象条件等が整えば100%太陽光発電でこの新倉庫の運営が可能です。首都圏の電子部品メーカー、半導体商社をはじめ、多くのおお客様にご活用いただいております。今後もより一層のサービス向上に努めてまいります。



環境負荷軽減の取り組みご紹介

当社は、第5次中期経営計画に「地球と社会にやさしく」と掲げており、環境負荷軽減の取り組みにも注力しております。



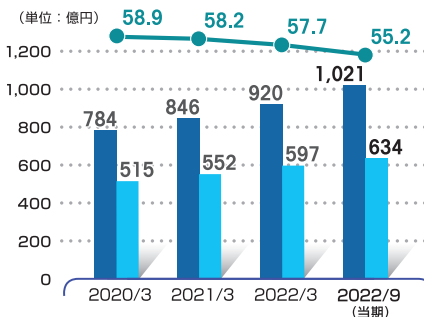
自家用車両はもちろん、事業用車両の入れ替え時にはハイブリッド車を選択し、今上期も2台を追加導入しました。排気ガスの減少に貢献しています。

また、貨物の運搬時に使用するプラスチックフィルムのリサイクルを強化しています。貨物の保護や荷崩れ防止のために必要

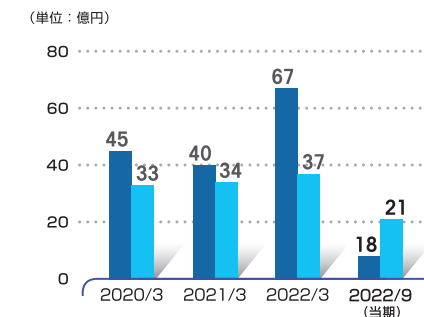


不可欠ですが、巻き方の工夫で使用量を減らすとともに、廃棄ではなくリサイクルを推進しています。

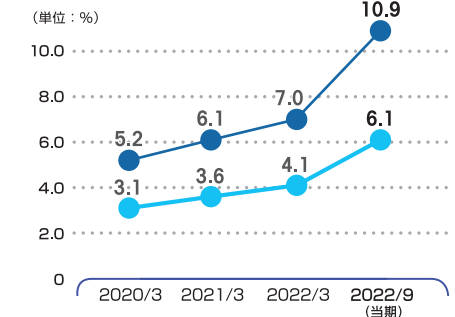
財政状況



設備投資・減価償却費



ROE・ROA



※ 2022/9期は年率換算して算出しています。